

令和6年度 学校評価（結果）について

R7 3月 主幹教諭

- 1 実施年月 令和7年1月中旬～2月中旬
- 2 対象者 生徒・保護者・教職員
- 3 生徒評価（回答数：487）、保護者評価（回答数：237）

全体的に例年と大きく変化した項目はない。その中でも、指導支援の成果が顕著なものや改善が必要なものについて以下にまとめる。

【良い点】…思う、どちらかというと思うを合わせて90%を超えているもの中心

- 「みんなで何かをするのは楽しい」「だれかの役に立ててうれしい」「係活動や当番には、責任をもって取り組んでいる」の項目について、「そう思う」「どちらかというと思う」（以下「肯定的に捉えている」と表現する）と回答した生徒が90%を超えている。これまでの特活を軸として、実行委員中心とした生徒主体の取り組み。取り組みの前後で目標立てや振り返りをしっかりと行い、やりがいや自己有用感を高める支援をしてきた成果が表れている。
- 「友達となかよく生活している」の項目について、肯定的に捉えている生徒や保護者が90%を超えている。「先生は、私たち一人一人を大切に温かく接してくれている」の項目も肯定的に捉えている生徒が90%以上を超えている。生徒のよりよい関係を促す座席を考慮したり、授業や行事等の様々な活動で、必要に応じてペアやグループ活動を取り入れたり、振り返りなどで他者の意見を認め合う機会を設けたりするなど生徒のかかわり合いを高める支援を行ってきた成果が表れている。また、休み時間に学年の教員が中心となって、学年フロアで生徒を見守ったり、定期的に行う教育相談だけでなく、気になる生徒には、個別に相談を行い、関係者で支援方法を共通理解したりするなど、一人一人にあった丁寧な支援・指導を継続してきた成果が表れている。
- 「病気やけがをしないように、気をつけて生活している」「学校では、換気や手洗いを、手指消毒をしっかりと行っている」の健康安全に関わる項目に対して肯定的にとらえている生徒、保護者が90%を超えている。家庭では望ましい生活習慣に心がけていただいていたいたり、学校では、日ごろから養教や保健委員会の生徒を中心に、換気や手洗いの呼びかけをしたり、マスクの着用を呼び掛けたりしてきた成果である。

【改善点】

- 委員会・係活動・行事などで、自分が進んで立候補した役割などに関しては、生徒が一生懸命取り組み、多くの生徒が自己有用感を感じている。しかしながら、「授業に自ら積極的に取り組んでいる」項目に関して、「どちらかというと思わない」「思わない」（以下「否定的に捉えている」と表現する）を合わせた30%近くの生徒が否定的に捉えていることから。特活を中心とする取り組みで培った「かかわる力」「表現力」などを授業での学び合う場面に活かす支援を今まで以上にしていく。
- 「行事は楽しく、積極的に参加している」という項目で肯定的に捉える生徒が80%を超えているものの、否定的に捉えている生徒が17%近くいる。コロナ禍でできなかった行事などについて、見直しを図りながら、現状に合った取り組みを実施している。行事の内容や取り組み方法について、生徒の意見も取り入れながら検討していく必要がある。
- 「住んでいる地域の行事などに積極的に参加している」という項目で否定的に捉えている生徒が45%を超えている。地域の行事のボランティアに積極的に参加している生徒も多いが、一部の生徒が何度も参加しており、多くの生徒が積極的に参加できていないのが現状である。地域コーディネータを通して、地域と連携しながら、地域の行事に生徒が主体的に参加できるような働きかけをしていきたい。
- 「夢や目標に向かって努力している」の項目について、進路について真剣に考える3年生は、

肯定的に捉える生徒が90%近くいるものの、1、2年生は、否定的に捉えている生徒が20%を超えている。本校を卒業した高校生や大学生（今年度は社会人）を講師に招く進路学習会などを継続し、長いスパンでの縦割り交流を活用した1、2年生でのキャリア教育を今後も充実していく必要がある。

- 「毎日の課題（スタディサプリ）には、積極的に取り組んでいる」の項目について、否定的に捉えている生徒や保護者が30%を超えている。今後の入試の形式や基礎的な内容から発展的な内容まで、生徒の能力に合わせて個別に学習をできる観点から、生徒の実態にあった配信の仕方や取り組み方の確認の仕方について検討する必要がある。また、引き続き、生徒、保護者へも学習方法や機能等の周知徹底が必要である。

【保護者の自由記述欄】 ○肯定的 ●否定・改善必要 △検討必要

全体に関わるご意見について、下記にまとめます。

○いつも子どもたちに寄り添って、様々なトラブルや相談に丁寧に対応していただき、感謝です。

○部活の活動を通して、良い仲間と出会い、貴重な経験をさせていただき感謝です。

- もっと生徒の意欲を高めるおもしろい授業をしてほしい。

→生徒の実態をしっかり捉え、生徒の学習意欲が高まり、分かる実感や喜びを味わえるような支援に努めます。

- 評価の仕方が先生によって差がある気がする。

→評価説明会で説明した通り、共通理解のもとで評価をしております。再度、職員で共通理解を図り、定期的に確認します。

- 校則が厳しく、時代にそぐわない。市内の中学校とも統一されていないことがある。持ち物（3way バッグが高価）、髪型（ツインテール、ハーフアップ等）、靴の色の規定を変えてほしい。など生徒がもっと自由に学校生活が送れるようにしてほしい。（同内容複数）

→校則は基本各学校で規定するもので、市内で統一はされていません。通学用バッグについては、容量と丈夫さ、機能性と安全性を考慮して決められたものです。価格について業者に確認したところ、3way バックと通学用リュック（普通のリュックだと型崩れし、何個も買い替えることが多いです。）を比較しても変わらないとのことでした。また、3年間使用すると通学用のものでも劣化し、高校まで使用できない場合が多いようです。要望が多ければ、今後検討していきます。また、校則について、アンケートを実施したところ、半数強の生徒が現在の校則に不満はない。一方半数弱の生徒が変えてほしい規定があると回答しました。その中で、靴と靴下の色の規定について、見直してほしいという意見が多かったため、現在、校則改善委員会で検討中です。今後も定期的に校則改善委員会を開催し、生徒が主体となって校則について考え、より良い学校生活が送れるように校則を改善していきます。途中経過についてPTA役員会やホームページ等でお知らせしていく予定ですので、ぜひご意見をください。

- ホームページの学年通信や月間予定などをもっと早く更新してほしい。（複数）

- 学校で流行っている病気などをホームページに載せてほしい。

- 授業参観の時間割や内容をホームページなどで教えてほしい。

- 子どもがご褒美を持ち帰らないので、絆メール等で流してほしい。

→予定については、早めに更新するように努めます。授業参観の内容等につきましては、可能なら限り、事前にホームページまたは、絆メールでお知らせいたします。お子様にも内容を聞いていただき、参観していただけると幸いです。学校での病気の流行は、必要に応じて、絆メールなどで予防についての協力をお願いします。また、重要なお褒美については、配付した連絡や必要に応じてホームページや絆メールでお知らせします。

- 毎日課題を増やしてほしい。一度にためてやってしまい毎日勉強していない。紙媒体や冊子タイプの方がやりがいがあるのではないかと。教科によっては、やりづらい内容のものがある。
→毎日課題については、アンケート結果のところでも示した通り、今後の入試の形式や基礎的な内容から発展的な内容まで、生徒の能力に合わせて個別に学習をできる観点から、生徒の実態にあった配信の仕方や取り組み方の確認の仕方について検討していきます。
- 学校を休んだ場合に、配付されたプリントが届かなかったり、次の日の予定や学習内容が分からなかったりすることがよくある。
→欠席した生徒には、担任から家庭連絡をすることになっている。Teamsなどで予定やその日の授業内容が分かる板書の内容を送ったりして学級もあるが、再度徹底するように確認します。
- 縦割り活動で地域貢献するような活動を増やしていけたらよいと思います。作品展の作品を生徒が地域受け取りに行き、施設の方々と交流したり、手伝ったりできるとよいのではないのでしょうか。
→貴重なご意見ありがとうございます。校内だけでなく、地域でも縦割り活動を生かすことは、さらなる生徒の成長につながります。作品展の作品のやりとりについては、貴重なものもあるため検討が必要です。実際に実現が可能なのか、どのような内容で行うのかなども含め検討していきます。

4 教職員評価（回答数：41）

【学校経営に関するもの（主に授業づくりや安全指導）】

「分かる授業・楽しい授業づくりに努めている」

「授業力・指導力向上のために、研鑽を積んでいる」

「『学び合い、学びを深める』授業の創造と実践に努め、自主的な学習態度を養い、学習意欲を高める指導を行っている」

「魅力ある教材教具の開発に努めるとともに、学びを深める話し合いづくりや授業展開を工夫している」

「安全点検・安全指導に努めている」

など授業づくりや安全に関する項目については、肯定的に捉えている（「そう思う」「どちらか」というと「そう思う」を合わせた）教員が90%以上いることはよいが、本来100%でなければならない項目でもある。共通理解を図りながら、同一步調で支援していく必要がある。

【心のふれあう学年・学級経営に関するもの】

どの項目も肯定的に捉えている教員が90%を超えており、生徒理解に努め、生徒に寄り添いながら、生徒の自己有用感を高める努力はできているので今後も継続していきたい。

【地域とともにある学校づくり】

「地域コーディネーターを有効的に活用している」の項目で否定的にとらえている（「どちらか」というと「そう思わない」「そう思わない」を合わせた）教員が30%弱いる。様々なことで協力していただいているが、学校全体で関わっていると感じている教員が少ないことが分かる。今後は、担当だけでなく、学校全体で関わるができるように共通理解を図りたい。

【多忙化解消にかかわる】

どの項目も否定的に捉えている教員の割合が昨年度より10%から20%増加している。ゆとりある中で、生徒に寄り添い支援する時間を増やすために、学校でできる業務改善は進めているが限界である。市単位、地域単位、国単位で行う様々な事業（学力テスト、研修会や研究会、各種調査等）も大幅に見直し、改善する必要がある。